

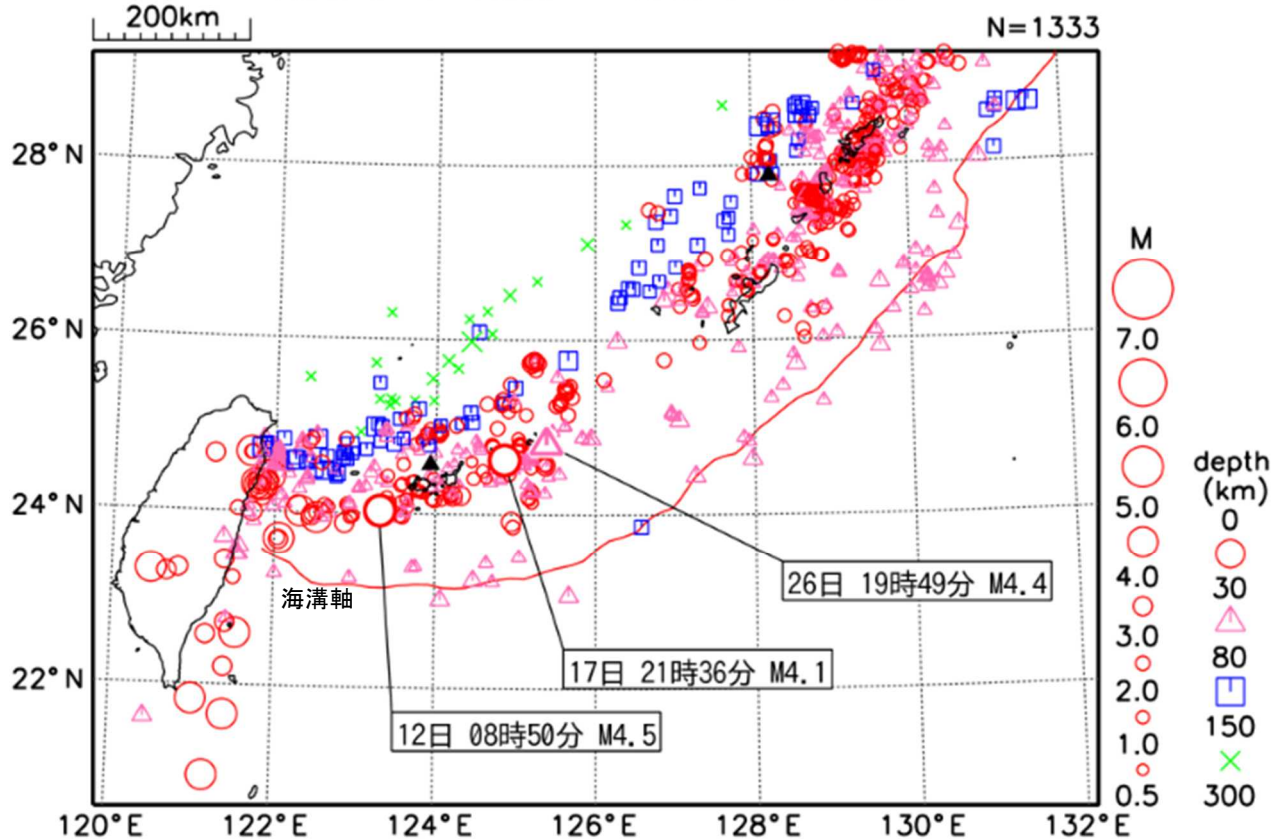
沖縄地方の地震活動

令和8年（2026年）1月

沖縄気象台

図1 沖縄県及びその周辺の震央分布図

2026 01 01 00:00 -- 2026 01 31 24:00



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ
N：地震の回数（マグニチュード0.5以上の回数です）
▲：活火山

沖縄県内で震度1以上を観測した場合は、吹き出しで示しています。

[概 況]

今期間に沖縄県内で震度1以上を観測した地震は3回（2025年12月は7回）でした。

1月の主な活動は次のとおりです。

26日19時49分宮古島近海の地震（深さ49km、M4.4）により、宮古島から多良間島にかけて震度2～1を観測しました。この地震は宮古島近海で発生している繰り返し地震※の一つです。

※この地震は宮古島近海のグループAに該当します（沖縄地方の繰り返し地震は末尾記載の沖縄気象台ホームページ参照）。

図 2 - 1 沖縄本島付近の震央分布図及び断面図

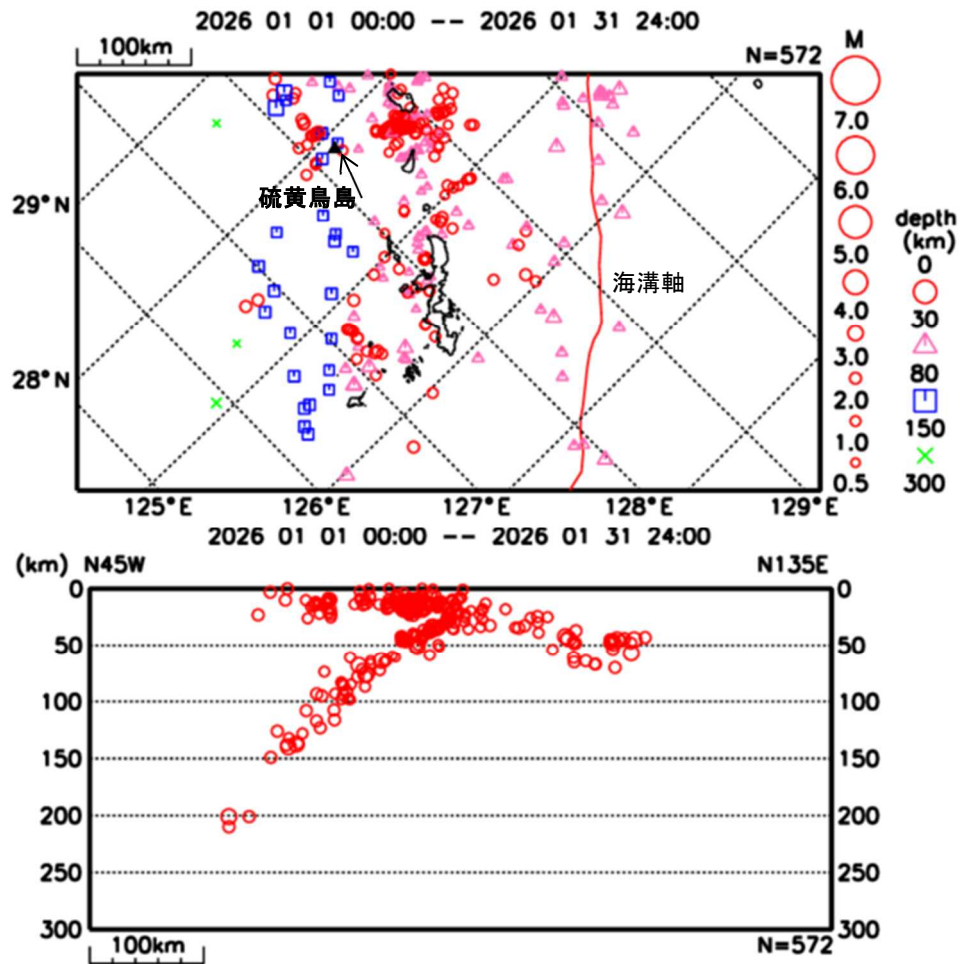


図 2 - 2 宮古・八重山諸島付近の震央分布図及び断面図

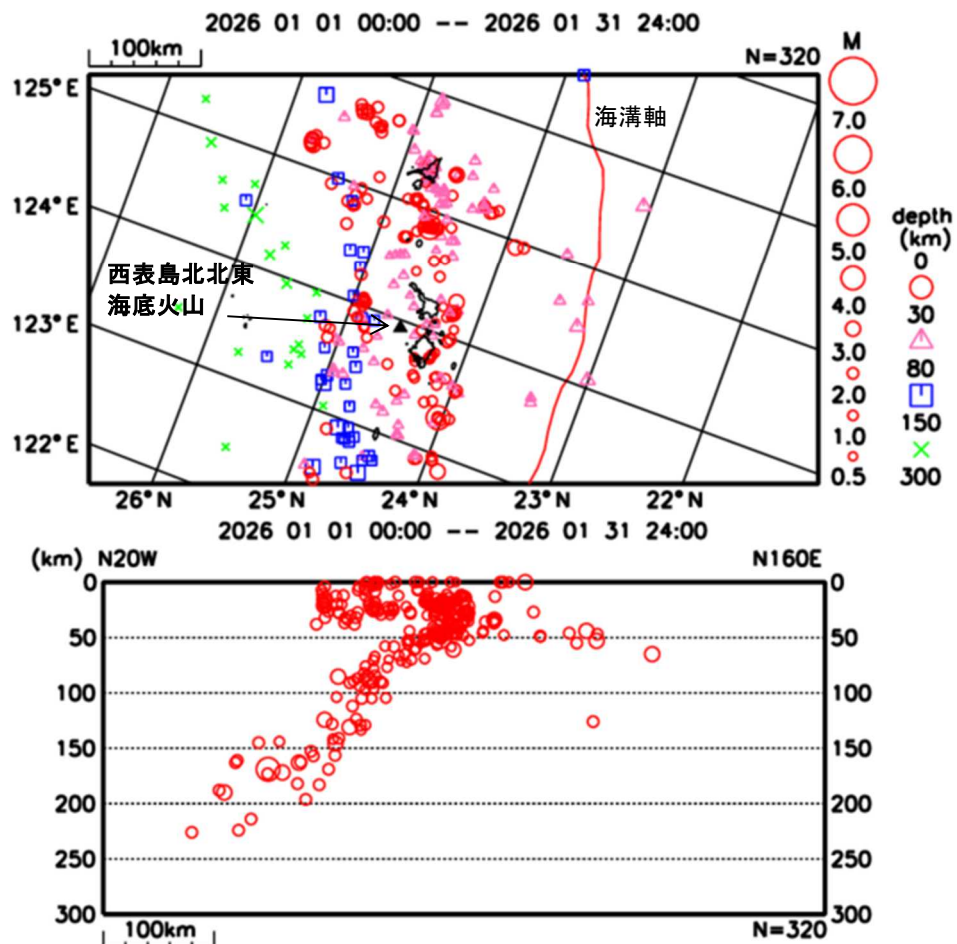
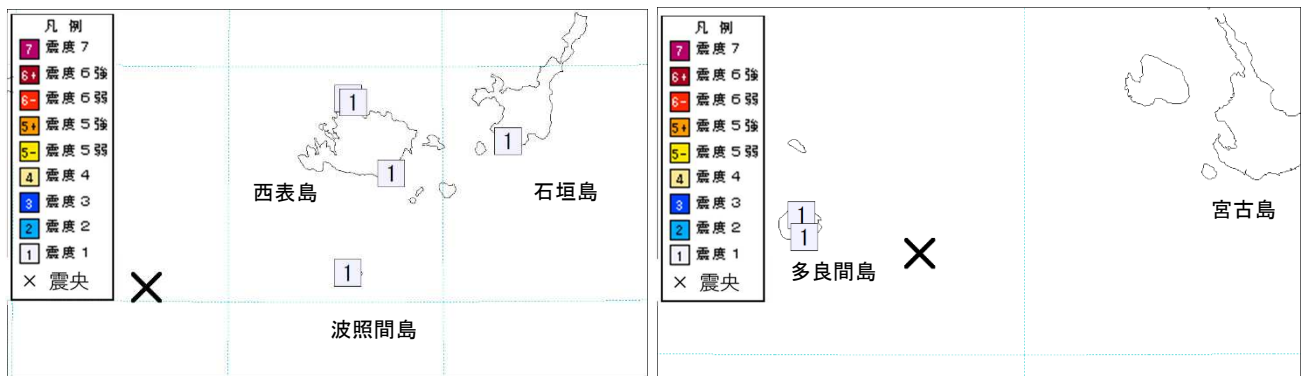
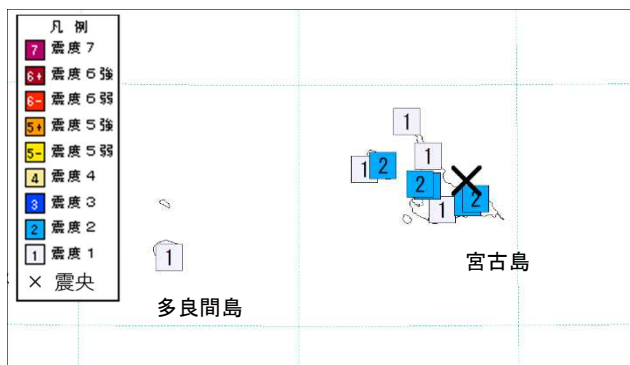


図3 震度分布図



1月12日08時50分 与那国島近海 深さ20km M4.5

1月17日21時36分 宮古島近海 深さ24km M4.1



1月26日19時49分 宮古島近海 深さ49km M4.4

表1 沖縄県内で震度1以上を観測した地震の表（期間1月1日～1月31日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2026年01月12日08時50分 沖縄県	与那国島近海 震度 1：石垣市新栄町＊，竹富町大原，竹富町波照間，竹富町上原小学校 竹富町上原青年会館＊	24° 01.8' N	123° 18.6' E	20km	M4.5
2026年01月17日21時36分 沖縄県	宮古島近海 震度 1：多良間村塩川，多良間村仲筋＊	24° 37.3' N	124° 51.6' E	24km	M4.1
2026年01月26日19時49分 沖縄県	宮古島近海 震度 2：宮古島市平良下里，宮古島市城辺福北，宮古島市伊良部前里添，宮古島市城辺福西＊ 宮古島市平良西里＊ 震度 1：多良間村塩川，宮古島市平良池間，宮古島市上野新里，宮古島市平良狩俣＊ 宮古島市下地島空港＊	24° 48.0' N	125° 23.0' E	49km	M4.4

＊の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※沖縄地方以外に震度が観測された場合は、その震度も記載します。

※ 資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

詳細は沖縄気象台ホームページで閲覧できます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/jishin/quake.html>

震度 1 以上を観測した地震の震度分布図は、気象庁ホームページ「震度データベース検索」でご覧になれます。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

地震・津波・火山に関する防災一口メモ

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/now/memo/sougou.html>

沖縄地方の繰り返し地震

URL <https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/jishin/quake.html>

本件に関する問い合わせ先：沖縄気象台地震火山課 098-917-7927

地震の揺れから身を守るために！

～ 熊本地震から10年 ～

日本は、世界有数の地震大国で、これまで多くの地震や津波による災害を経験してきました。例えば、平成28年の熊本地震において、最大震度7の地震が2度発生（4月14日と16日）したほか、一連の活発な地震活動によって、**甚大な被害**を受けました（右写真参照）。大きな被害をもたらす地震は特定の地域に限って発生しているわけではなく、全国各地で発生しています。

■地震から身を守る行動の具体例

地震の揺れは突然襲ってきます。いつ大きな揺れに見舞われても身を守ることができるように、屋内・屋外問わず周囲の状況や避難経路を確認し、揺れに備えましょう。

< 日頃からの備えの例 >



2016年熊本地震の被害（災害時地震報告 平成28年（2016年）熊本地震より）

< 参考（地震から身を守るために）>

気象庁HPのURL:

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/jishin_bosai/index.html



✓ **備蓄・非常持ち出し品の準備**
非常時の水・食料の備蓄や、非常用持ち出し品を準備しておきましょう。

✓ **安全スペースの確保**
室内になるべくものを置かない「安全スペース」（ものが落ちてこない・倒れてこない・移動しない空間）を作っておきましょう。

室内の備えのイメージ
（資料：東京消防庁）



✓ **周囲の状況の確認**
普段通る道に危険な場所やものがないか確認しておきましょう。また、地盤の弱い場所や地震によって地盤の緩んだ場所では、降雨などにより土砂災害が発生することがあります。前もって周囲の状況を確認しておきましょう。

✓ **連絡手段の確認**
地震が発生したときの連絡手段や集合場所について、あらかじめ家庭で話し合っておきましょう。

✓ **家具の固定**
家具を固定しましょう。また、万が一倒れてきた場合でも、通路をふさがらないような配置を考えましょう。

✓ **訓練に参加しよう**
本当に地震が起こったときに、あわてずに身の安全を図ることができますか？積極的に訓練に参加しましょう。



地震に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

Q 検索

